

# 『経済科学通信』執筆要項

2021年4月4日 暫定版

## I 概要

(1) 文字数は原稿種別ごとに下記の通りです。写真・図表、注記も含めた字数になります(図表1点につき400字で計算)。ただし、依頼原稿の場合は、最終的には執筆依頼状に記載の文字数が優先されますので、そちらも合わせてご確認ください。

- 投稿論文:12000字上限(厳守)
- 特集論文:7000字~12000字上限(厳守)
- 特集解題:1200字~3000字
- NEWSを読み解く:7000字
- 書評:4000字
- 古典を読み解く:7000字~12000字上限(厳守)

【重要】Wordの場合、字数は必ず「校閲」タブ⇒「文字カウント」をクリックし、「文字数(スペースを含める)」に表示される文字数で計算して下さい。ウインドウ左下の値ではありません。

<https://mos.tokyo/2018/07/15/count/>

(2) 冒頭にタイトルとお名前の漢字表記をお書き下さい。

例: 世界政治経済学会の動向について 鈴木克己

(3) 読点は「、」ではなく、「,」(コンマ)をお使い下さい。また句点は「。」をお使い下さい。

(4) 原稿の最後に、ひらがなでお名前、所員・所友の方はその別、所属機関名あるいは職種をお書き下さい。

例:(すずき かつみ 所員□労働者),(やまだ あきら ○○大学)

(5) 原稿につきましては、メール(添付ファイル)にてデータで入稿して下さい。

メールの宛先は、[henshu@kisoken.org](mailto:henshu@kisoken.org) です。原稿の郵送は不要です。

図表についても、Excel、PowerPointなどのデータの形でお送り下さい。万が一厳しい場合、執筆段階から編集局にご相談下さい。

## II 節・項の区別のしかた

(1) 本文中の節題番号は、「はじめに」の部分を含めて、ローマ数字(I, II, ...)を記し、項分けの数字は(1), (2), ... を使用して下さい。

例: I はじめに

#### (1) 本稿の目的

(2) 表および図の見出しは、図・表の上に「表1○○○」、「図1○○○」...として一連番号にして下さい。

(3) 注、出所、資料については図・表の下に、注)、出所)、資料)として付記して下さい。

### III 文章の表現

(1) 一般読者向けの読み易さに留意して、叙述は平明に、長い文章や難解な表現は控えて下さい。

(2) 接続詞、副詞、助動詞、読みの難しい漢字はかな書きをして下さい。

例： および(及び)、ならびに(並びに)、したがって(従って)、また(又)、あるいは(或いは)、すなわち(即ち)、もちろん(勿論)、まだ(未だ)、ごとし(如し)、いかが・いかん(如何)、いわゆる(所謂)、ゆえん(所以)

(3) かな文字の反復は、文字を反復して書き、符号(ゝなど)は使用せず、漢字の反復は符号(々)を用いて下さい。

例： ぞろぞろ、人々

(4) 2桁以上の数字、アルファベットは、半角による表記にして下さい。

例： 50年前、1999年、OECD、Adam Smith

(5) 数字は原則としてアラビア数字(算用数字)の半角を使って下さい。数の意味が全くないものや、熟語・成句・固有名詞に限り漢数字、経済学の慣用となっている場合はローマ数字を用いて下さい。

例：1人当り 前2者 第2次 4分の1 一足飛び 十分条件 四捨五入

ただし、概数(数十日間、百数十、何千人)や化合物の名称(一酸化炭素、四酸化鉄)には漢数字、大きな数字を使うときは兆・億・万の単位語を入れ(300億 2542万人、8万 5000人)位取りカンマは付けなくて下さい。

### IV 注、引用文について

(1) 注は、一括して論文末に列記し、本文中の当該個所の右肩に<sup>1)</sup>、<sup>2)</sup>。と付けて下さい(ワープロソフトで付番処理する場合、丸かっこを右だけに設定してください)。また、句読点は注番号の後、<sup>1)</sup>、<sup>2)</sup>。のように記入してください。

(2) 論文末に引用文献の一覧を付記される際には、「参考文献」と題して、[1][2]...と一連番号を付けて列挙して下さい。

(3)インターネット上のものを引用、参考文献として提示する場合、必ず URL と共にアクセス日を明記して下さい。

注・引用文献の表示は下記の順序・書式で行なってください。

単行本 著者(編者)名『書名(副題含む)』発行所名, 発行年, 頁。

論文 著者名「論文表題」『雑誌(収録書物)名』巻 号, 発行年月, 頁。

著者名「論文表題」, 共・編者名『書名』発行所名, 発行年, 頁。

**【繰返し参照の省略記号】**

(直後の場合)同上, 頁。

(直後でない場合)著者名, 前掲書(前掲論文), 頁。

**<外国語文献の場合>**

※ファーストネーム, ミドルネームは原則としてイニシャルで表記

単行本 著者名, 書名(イタリックあるいは下線), 出版社名, 発行年, 頁。

例: J.A.Pechman, Federal Tax Policy, 5th ed., The Brookings Institution, 1987, pp.86-90.

論文 著者名, 論文名, 巻号・雑誌名(イタリックあるいは下線), 発行年, 頁。

例: H.P.Young, "The Evolution of Conventions," *Econometrica* 61, 1993, pp.57-84.

**【繰返し参照の省略記号】**

(直後の場合) *ibid.*, p. 頁数

(直後でない場合) *op. cit.*, p. 頁数

※翻訳だけを引用する場合は、訳書のみを出典として示してください。

## V 原稿種別ごとの注意事項